

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520760

研究課題名(和文) 佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究

研究課題名(英文) A study of medical education in southwestern domains centering on Saga, Nakatsu, and Chosyu.

研究代表者

青木 歳幸 (AOKI, TOSHIYUKI)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・特命教員

研究者番号：60444866

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において最終年度に研究成果報告書(A4版、353頁)を刊行した。(1)佐賀藩では1834年の医学寮の創設、1858年の好生館の設立など、藩主導による本格的な西洋医学教育が展開したこと、(2)慢性的な財政難に悩む中津藩にあっては、藩民の主導による医学館の創設など新医学教育が展開したこと、(3)長州藩の医学館は藩の対外政策と密接に結びつきながら、機能整備・強化がはかられたことなどを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The main topics clarified by the final report (A4, 353 pp.) on this research project are as follows. (1) Beginning with the establishment of a medical dormitory in 1834 that was followed by the establishment of the medical school Koseikan in 1858, full-fledged Western-style medical education in Saga continuously developed in line with the policies of the domain. (2) Due to chronic financial difficulties domain authorities in Nakatsu had to relinquish the foundation of a medical school and the development of modern medical education to local physicians and well-to-do merchants. (3) The medical school in Chosyu; and the consolidation and strengthening of its functions were closely related to the foreign policy of the domain.

研究分野：日本史・医学史

キーワード：医学史 佐賀藩 中津藩 長州藩 種痘 好生館 伊東玄朴 医学館

1 . 研究開始当初の背景

(1) 西南諸藩の洋学研究は、杉本勲氏ら編『西南雄藩の洋学 佐賀・鹿児島・萩藩を中心に一』(トヨタ財団助成研究報告, 1985) 及び杉本勲編『近代西洋文明との出会いー黎明期の西南雄藩』(思文閣出版, 1989) が嚆矢的研究であるが、佐賀藩を中心としたこの研究では、幕末期洋学は医学から転換し軍事科学化したという結論であった。唯一、酒井シヅ氏が、佐賀藩医学校好生館での西洋医学研修や医業免札姓名簿を紹介していたが通説を訂正するまでには至らなかった。

(2) こうした研究状況をふまえ、代表者は佐賀藩医学史研究を開始し、「佐賀藩蘭学再考 医学史の視点から一」(『佐賀大学地域学歴史文化研究センター紀要』1号, 2007, 以下センターもしくは『紀要』) で、領内種痘の普及状況により、佐賀藩蘭学は医学から軍事科学に転換したのではなく、両様あいまって拡大していったことを明らかにした。さらに「佐賀藩「医業免札姓名簿」について」、『紀要』3号, 2009) で、佐賀藩が648人もの全領内医師への医業開業免許制度を実施したこと、「『小城藩日記』にみる近世佐賀・医学洋学史料 前編・後編」(センター, 2009・2010) で佐賀藩支藩小城藩の医療事情と、多数の郷医(在村医)が存在したこと、「小城藩医の医学稽古」、『紀要』, 2010) で、佐賀藩・小城藩は江戸時代中期以降、藩費による医学稽古を制度化していたことなどを明らかにした。この一連の研究成果から、佐賀藩の医師らはどのように養成されてきたか、医学教育はどのようなものであったか、それは近代医学にどのように影響したのかという研究、すなわち近世医学教育の研究に発展させる必要があると着想した。

(3) 近世諸藩の総括的医学教育研究が、山崎佐「各藩医学教育の展望」(1965) 以来、50年余も進展せず、平成23年度日本医史学会でもその進展が求められていた。

2 . 研究の目的

本研究の目的は、西南諸藩の医学教育の歴史的意義を、佐賀藩・中津藩・長州藩を主研究対象にし、諸藩と比較して解明することにある。研究は、上記三藩を軸に、藩権力が医師の養成、医学教育をいかに行ったか、種痘普及のシステムをどう構築したか、医学稽古の仕組みと学統ネットワークがどう形成され機能したか、医学教育における国元と江戸藩邸・私塾の役割はどうかを検証する。

3 . 研究の方法

(1) 本研究の研究者と役割分担から研究の方法を説明する。三年の研究期間内に、研究代表者青木歳幸は、佐賀藩医学史研究を発展させ、佐賀藩の医学稽古と好生館医学教育及び伊東玄朴塾の実態を解明する。佐賀藩医学校好生館に関する史料の調査収集・資料の目録化を実施する。種痘における地域普及の実態とシステムを、分担者、協力者とともに長州藩、中津藩、福井藩、各江戸藩邸などと比較研究し、解明する。各分担者は年次別計画にそって研究をすすめ、毎年2回の共同研究会を開催し、研究成果を報告し合い、三年後に代表者と分担者らとは西南諸藩医学教育の報告書(含む資料集)をまとめ、刊行する。

(2) W・ミヒエルは、九州の蘭学及び中津藩研究をすすめる。村上医家資料館、大江医家史料館、歴史民俗資料館、福沢記念館、小幡記念図書館などの器物・文書史料をもとに、江戸後期から明治・大正頃にかけての医学と歯学の教育並びに医療の近代化を追究する。

その際、漢方系の医者西洋医学への転換にも着目して解明する(大江家、村上家、屋

形家，田淵家，田原淳，田淵家，小幡英之助，藤野玄洋，田代基徳など）。

(3)小川亜弥子は『幕末期長州藩洋学史の研究』（思文閣出版，1998）の医学史視点を発展させ，長州藩洋学研究，山口県教育史研究と関連づけつつ研究をすすめる。長州藩が医学を教育政策上の問題として強く認識した幕末期を中心に，医学教育の制度化の過程，教育の実態を解明する。長州藩は，竹下喜久男『近世の学びと遊び』（思文閣出版，2004）が明らかにしたように，医学先進地域への藩費による遊学の先進藩の一つであり，京都，長崎など医学先進地への遊学による医術向上と人的交流が活発であり，その遊学の具体的様相を明らかにし，知のネットワーク形成と医師養成の実相を探る。

(3)研究協力者海原亮は，代表者に協力して，全国諸藩の医学教育研究の立場から，西南諸藩との比較研究と医師データの収集を行う。同じく研究協力者三木恵里子は，皆川淇園ら儒医研究をしており，医学教育における儒医の役割を主に研究協力をする。以上に加えて，佐賀県の地域史研究者多久島澄子を研究協力者として，本研究課題を推進する。

#### 4．研究成果

(1)本研究によって各藩医学教育の特徴と実態が明確に解明できた。佐賀藩医学教育に関しては，代表者青木歳幸が，天保5年（1834）に開設された医学寮において，すでにドイツ医学を主とする西洋医学教育が展開していたことを明らかにし，安政5年（1858）開設の藩医学校好生館においてもドイツ医学教育が主であり，明治以降，医学校取調御用掛となった佐賀藩医出身相良知安が我が国ドイツ医学の導入をはかった背景を筋道として明らかにした。江戸の伊東玄朴塾では，医学教育に加えて，対外的危機の高まりをうけて，国元で長崎警備を担っている佐賀藩にとって有用な西洋科学技術や軍事科学研究を

含む蘭学教育が展開していたことを明らかにした。

(2)佐賀藩医学稽古の事例は84例ほど抄出し，他国師匠への稽古費用の一部が藩費で賄われていることを明らかにし，佐賀藩の藩主導による医師養成制度を明らかにした。藩医学校好生館の教科書等の目録作りを行った。この成果は『好生館史』の一部として27年度に公刊予定である。

(3)種痘については，佐賀藩が嘉永2年（1849）に導入した牛痘法による種痘が全国へ展開したことを整理した。佐賀藩領では引痘方を設置し，藩医による接種を推進したこと，好生館設立後は，10人程度の藩医を引痘方医師に任命し，領内を巡回接種させ，接種料は全額藩が賄い，庶民は無料であったことを明らかにした。佐賀藩では，藩主導の医学と医療が積極的に行われていたことを実証的に明らかにできた。さらに，その藩主導の医療政策という背景のもとに佐賀藩で育った蘭方医たち，とくに伊東玄朴，相良知安やその門人たちが，学統ネットワークを形成し，我が国近代医学における国主導の医療と医制の基礎をつくっていったことも『伊東玄朴』の刊行などで明らかにした。

(4)中津藩については，分担者ミヒェル・ヴォルフガングが，豊前中津の特徴の解明と，同藩領における医学教育の変遷を鮮明にした。中津藩は寺子屋が発達し，知的水準の高まりに伴い，地方出版屋も生まれたこと，藩民の高い教育水準や医師たちの啓蒙活動ならびに商人層の奉仕精神が民間の医学館設立運動となり，牛痘接種の普及によって，医療の組織化や予防政策の有用性が認知され，商人らの寄付金で医学館が設立されたことが中津藩医学教育の大きな特徴であったこと，しかし本格的な近代医学教育を支えるほどの経済力は地元にはなく，医学館を引き継ぐ形で明治4年（1871）に誕生した中津医学校は短命に終わり，大分県立医学校も廃校に

なったこと、しかし幕末・明治の激変期に屋形、田淵、深水、村上、大江などの各流派の医家が見せた適応は、地方医家の典型として大いに注目に値することを明らかにした。

(5)長州藩については、研究分担者小川亜弥子が、天保11年(1840)に医学稽古場が造られたこと、弘化3年(1846)に明倫館を頂点とした藩内教育の一環に医学教育を組み込む構想が明らかにされ、嘉永2年(1849)に済生堂(医学館)が設立されたこと、種痘実施により済生堂が、嘉永3年の医学学校好生館の開設につながったことなどを明らかにした。天保期から安政期に焦点化して、医学館の役割と機能に関する実態を解明できた。

(6)最終年度に、代表者および研究分担者、研究協力者の論考と佐賀藩医学教育資料『峯源次郎日暦』を掲載した平成24~26年度科学研究費補助金基盤研究(c)研究課題番号24520760『佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究』報告書(以下、『西南諸藩医学教育の研究』で表記、A5版、353頁)を刊行でき、当初の年次別計画通りに順調にすすみ、上記のような多くの研究成果をあげることができた。

(7)『西南諸藩医学教育の研究』所収の論考・資料の内容は以下の通りである。青木歳幸「佐賀藩医学史概要」で佐賀藩の医学教育の概要を述べ、青木歳幸「種痘法普及と在来知」で、佐賀藩が牛痘法導入に成功したきっかけは人痘法が在来知として前提にあったことを明らかにし、青木歳幸「佐賀藩引痘方とその活動」で、佐賀藩が引痘方をつくり、全額藩費で領民種痘実施者へは無料で種痘を普及させたことを明らかにした。

ミヒェル・ヴォルフガングは、「中津地方における医学医教育の近代化について」で、慢性的な財政難に悩む中津藩において、藩民協力のもとで医学館が設立されるなどの特徴的な実態を明らかにした。

研究分担者小川亜弥子は「幕末期長州藩に

おける医学館の創設とその機能」で、天保期から安政期に焦点化して、長州藩の対外危機の関心の高まりにあわせて、医学館の役割と機能の強化が図られた実態を解明した。

さらに研究協力者海原亮は、「徳山毛利家文書「医学館一事記」にみる医療環境と医学教育」において、長州藩支藩徳山藩では文政6年(1823)から医学館による医学稽古が始まり、松岡玄知の専門教育の形で展開したことなどを明らかにした。研究協力者三木恵里子は、「医学初学者の遊学環境」で、皆川淇園の門人に医師が多い理由に、そこでは初学医師に対して医師としての処方箋の書き方も指導していたことなどを明らかにした。伊万里市の研究協力者多久島澄子は、幕末から明治にかけての伊万里出身在村蘭方医峯源次郎の日記である『峯源次郎日記』を翻刻し、『峯源次郎日暦』からは、佐賀藩医学学校好生館の解剖実習や相良知安の失脚、札幌病院での活動などの新事実が生き生きと浮かび上がる

本研究は佐賀藩・中津藩・長州藩などを軸とした医学史と医学教育研究として上記のような多くの成果をあげることができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

- 青木歳幸、近世佐賀の地域特性と普遍性 医学史の視点から、『地域史の固有性と普遍性』、地域学歴史文化研究センター、pp97~102、査読有、2013.
- 青木歳幸、種痘にみる在来知、佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要、第七号、pp1~21、査読有、2013.
- ミヒェル・ヴォルフガング、伝統と革新 江戸・明治期の日本における医科器械、『Proceedings of International Symposium on the History of Indigenous

- Knowledge(以下 ISHIK2012)』pp61～67, 査読有, 2012.
- 研究協力者海原亮, 19世紀前半における地方藩医の蔵書と学問, 『ISHIK2012』, pp55～60, 査読有, 2012.
- 青木歳幸, 佐賀藩引痘方とその活動 (『佐賀学』, 岩田書院, pp117～145, 査読有, 2014.
- 小川亜弥子, 幕末期長州藩医学館の成立とその機能, 『洋学』二一号, pp129～163, 査読有, 2014.
- ミヒエル・ヴォルフガング, 近世日本医学における「越境」と「折衷」, 国立科学博物館篇『医は仁術』東京, pp138-144, 査読無, 2014.
- 青木歳幸, 佐賀藩医学史概要, 『西南諸藩医学教育の研究』, pp7～21, 査読無, 2015.
- ミヒエル・ヴォルフガング, 中津地方における医学教育の近代化について, 『西南諸藩医学教育の研究』, pp61～84, 査読無, 2015.
- 海原亮, 徳山毛利家文書「医学館一事記」にみる医療環境と医学教育, 『西南諸藩医学教育の研究』, pp107～134, 査読無, 2015.
- 研究協力者三木恵里子, 医学書学者の遊学環境 皆川淇園塾と山脇家を嶺にして. 『西南諸藩医学教育の研究』, pp135～143, 査読無, 2015.
- 研究協力者多久島澄子, 峯源次郎日曆改題, 『西南諸藩医学教育の研究』, pp145～154, 査読無, 2015.
- 多久島澄子, 峯源次郎日曆翻刻, 『西南諸藩医学教育の研究』, pp155～347, 査読無, 2015.
- [学会発表](計 13件)
- ミヒエル・ヴォルフガング, 伝統と革新, 第2回在来知国際シンポジウム, 2012, 10, 25, 於佐賀大学(佐賀県).
- 海原亮, 19世紀前半における地方藩医の蔵

- 書と学問, 第2回在来知歴史学国際シンポジウム, 2012, 10.26, 於佐賀大学(佐賀県).
- 青木歳幸, 国民健康保険の系譜, 第3回在来知歴史学国際シンポジウム, 2013. 10. 24～27, 於安陽文字博物館(中国).
- 小川亜弥子, 幕末期長州藩医学館の成立とその機能, 洋学史学会大会, 2013. 9. 14. 於電気通信大学(東京都).
- ミヒエル・ヴォルフガング, "Prayers for the Soul, Powders, Ointments, and Cautery for the Body" - Medical Interactions in 16th and 17th-Century Japan. International Conference: Renaissance Culture and Japan's Christian Century (1550-1650), 2013. 7. 20, 於学習院女子大学(東京都).
- 青木歳幸, 近代医学と佐賀藩, 佐賀県医師会大会招待講演, 2014. 6. 21, 於佐賀県医師会館(佐賀県).
- 青木歳幸, 種痘をめぐる2.3の問題, 「医工の絆」ハイブリッド医療人養成コースシンポジウム, 2014. 6. 28, 於長崎大学医学部良順会館ボードインホール(長崎県).
- 青木歳幸, 伊東玄朴に関する2.3の新知見, 洋学史学会, 2014. 11. 9, 電気通信大学(東京都).
- ミヒエル・ヴォルフガング, 近世日本の医学・医療と異文化交流, 第115回日本歴史学会総会・学術大会, 2014. 5. 31, 於太宰府市, 九州国立博物館(福岡県).
- ミヒエル・ヴォルフガング, 江戸・明治初期の医療器具について, 「医工の絆」ハイブリッド医療人養成コース国際シンポジウム, 2014, 6. 28, 長崎大学(長崎県).
- ミヒエル・ヴォルフガング, ツンベリーの弟子 Claes Frederic Hornstedt (1758-1809) について, 洋学史学会, 2014. 6. 28, 於長崎大学(長崎県).
- ミヒエル・ヴォルフガング, 「観察」と「験

屍」へ - 日本における屍体解剖の黎明，  
日本医史学会，関西支部秋季学術集会，  
2014，11.9，於大阪市立大学医学部（大  
阪府）。

ミヒェル・ヴォルフガング，江戸初期に  
おける蒸溜器について，日本薬史学会  
2014 年会，2014 . 11.22 . 九州大学(福岡  
県)。

〔図書〕(計 2 件)

青木歳幸，佐賀城本丸歴史館，伊東玄朴，  
2014，110。  
海原亮．吉川弘文館，江戸時代の医師修  
業，2014，254。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://sagaijaku.sagafan.jp/>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

青木歳幸 (AOKI, TOSHIYUKI)  
佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・  
特命教授  
研究者番号：60444866

(2)研究分担者

ミヒェル・ヴォルフガング  
(Wolfgang MICHEL)  
公益財団法人研医会・研究員  
研究者番号：90619769

研究分担者

小川亜弥子 (OGAWA, AYAKO)  
福岡教育大学・教授

研究者番号：70274397

(3)連携研究者  
なし

(4)研究協力者

海原亮 (UMIHARA, RYO)  
住友史料館主任研究員

三木恵里子 (MIKI, ERIKO)  
啓明学院 中学校・高等学校・教諭

多久島澄子 (TAKUSHIMA, SUMIKO)  
地域史研究者